



第68号

発行
横手清陵学院高等学校
横手工業高等学校
同窓会

責任者集
編集 壽松木道作

印刷 鶴田印刷(株)



自己を信じ挑戦を
同窓会長 壽松木 道作

同窓生のみなさん、昭和33年木材工芸科卒業の壽松木道作(横手市大雄)です。

平成27年度若つた会総会において、会長に選任された重責を担うことになりましたが、役員はじめ会員皆様のご協力をいただき職責を全うして参る所存でありますので、何卒よろしくお願いいたします。

母校の横工高が創立73年、新生・横手清陵学院高校が13年になり、同窓会員数も19、000名を数え、県内に4支部、県外に北海道支部をはじめ6支部が組織され、各支部とも母校への思いは尽きることなく、それぞれ独自の活動を続け同窓の絆と親睦を深めていただいております、紙面をお借りし心から感謝とお礼を申し上げます。

ただ、時代の流れとともに同窓生の就職状況が変化し、同窓会活動に支障が出ている支部など諸々の課題があり、

特に、同窓会本部は、近年の少子化等に伴い生徒数減から厳しい財政運営を強いられていくのが現状であります。従って、これら諸課題解決のため、会員みんなで英知を集結し、同窓会運営の一層の充実、強化に鋭意取り組んで参りたいと存じますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

今年度、県内各支部をはじめ、関東、仙台支部総会に出席して参りました。各支部とも多くの同窓生が集い、再会を喜び、和気藹藹と旧交を温め交流、歓談する光景を拝見し心強く、楽しいひと時を過ごすことができました。特に、関東、仙台支部では、新生・清陵学院の後輩達が多く参加し、先輩達と活発に交歓、談笑し、総会を大いに盛り上げていただき大きな感銘を受けました。これからも同窓会活動に多くの会員が積極的に参加されることを願う物であります。

さて、清陵学院高校第十期生として卒業される1801名の皆さん「ご卒業おめでとう」ございませう。皆さんは黎明期にある清陵学院の歴史の礎を築くため、学業、スポーツ、科学技術、地域貢献などに輝かしい実績を残され、関係者や地域から高く評価されており、先輩として心強く誇りに思っております。

皆さんの学舎は、東に緑溢れる奥羽の山脈、西に清流・横手川と自然豊かな環境での3年間は、勉強やクラブ活動、また、人間性を育むうえでとても充実した日々を過ごされたことができたものと思えます。卒業を機に社会人として第一歩を踏み出される方、なお上級学校に進み勉強に励まれる方など、その進まれる道は異なりますでしょうが、清陵学院の卒業生であることに誇りと自信を持ち、社会の何ものにもおそれず、清く正しい人間として、失敗を恐れず、堂々と自己の信じる道を切り拓いていかれますよう希望するとともに、皆さんの前途に栄光あらんことを心からお祈りいたします。



夢・希望・勇気
横手清陵学院中学校・高等学校
校長 谷 敏 広

日頃、壽松木同窓会長様はじめ同窓会の皆様より、本校教育活動に對しまして多大なる御支援、御協力を頂いておりますことに、まづもって感謝申し上げます。

さて、10年の節目を経て、これまでの成果を確認しつつ、更なる10年を展望した時に、本校独自の中高一貫教育校としての本質が見えてきます。

中学校、高校での普通科、総合技術科という3つの教育文化。それらが6年間、あるいは3年間というスパンの中で相互に刺激しあい、切磋琢磨して高め合う事による生徒達の飛躍。体育祭に代表されるタテの集団活動、また各学年部をチームとして日々活動するヨコの集団活動。このタテ糸とヨコ糸が織りなす清陵という模様は、それぞれの活躍の証であります。今年も3年生をリーダーとして、学習面はもとより、学校行事、生徒会行事、部活動などにおいて大きな足跡を残してくれました。生徒達に感謝したいと思います。

若者の特権の一つは、将来に大きな「夢」を持てる事で

あります。そして、それを叶えるための十分な時間が与えられております。「夢」の事を考えると胸がワクワクする、寝食を忘れるほどである。そういう「夢」を持ったときです。それをいざ実現しようとした時に、一抹の不安が心をよぎるかも知れません。しかし、同時に光明のような「希望」を感じるかも知れません。その「希望」は、日頃いろいろな目標を掲げて努力し達成してきた事とか、友達との間に強い絆を作ってきた事とか、いろいろな事に関心を持ち感動してきた事などから生まれるものでしょう。この「希望」を感じる事ができたならば、迷うことはありません。失敗を恐れず、「勇気」をもって前へ一歩足を踏み出して行ってください。きっと、すばらしい未来が待ち受けていることでしょう。

結びに、卒業生の皆さんの大いなる前途を祝福すると共に、校訓「切磋琢磨 学べ競え 望め」を胸に、さまざまなステージで活躍されることを御期待いたします。

支部だより

秋田支部

支部長 佐藤彰一

第十期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。そして同窓会「若つた会」へのご入会を心より歓迎いたします。いよいよ各自の夢に向かってスタートの時、母校の誇りを胸に自信を持って元気に活躍されることを願っています。私も母校を卒業しはや幾年月。エンジニアをめざし土木科へ入学し、職業として道路・河川などインフラ整備に関わる仕事ができました。社会に出て大切なことは勿論まわりとの人間関係です。職場でも頑張つてこられたのも、幸にも同窓の先輩や仲間の力添えや励ましがあつてのこと。同窓の絆をありがたく感じたところでした。いま皆様が巣立つ横手清陵はまだ歴史が浅く卒業生も少ないと思うのですが「若つた会」には母校・横手工業の先輩が全国各地におられます。この先々、何処かで皆さんと出合いがあると思いますので、その時は気兼ねなく同窓のよしみで声を掛けてください。

さて秋田支部は、会員が二百名程で、主な活動は春に開催する定期総会と月例のゴルフコンペ、等々を通じて懇親を

フコンペです。総会には、気心の知れた者どうし、久しく再会して旧交を温め合う楽しい場です。昨年の総会は大変嬉しいことに、清陵卒業生が初めて参加してくれました。参加した皆が新会員から元氣をもらい大いに盛り上がったところでした。これからも各支部の発展には若い力が不可欠ですので、皆様方には、お互い誘い合つてご参加をして頂きますようお願いいたします。

大仙・仙北・美郷支部

支部長 荒川暉也

第十期生の皆さんご卒業おめでとうございます。そして「若つた会」への入会、支部会員一同心から歓迎いたします。進学される方、就職される方、それぞれの道はあると思いますが、今までと違った環境で生活して行くことは確かであります。生活環境の違いがあつても母校で学んだことを基に、若者らしく希望を持ってご活躍されますよう期待しております。

さて、私も「若つた会」大仙・仙北・美郷支部は、本部に隣接する支部であり、二百五十人余りの同窓生がおり、毎年二月第四土曜日に開催される支部総会を始めとして、支部役員会、年二回のゴルフコンペ、等々を通じて懇親を

深めております。二十代から七十代の同窓生が一堂に会し、恩師の思い出、同級生のこと、部活のこと、通学列車のことなどを語り合い、何れも楽しい懇親の集いになっております。皆さんも是非在住の地域の支部に連絡を取り、参加されますようお願いいたします。

仙台支部

支部長 日高克己

第十期生の皆様には、ご卒業おめでとうございます。

そして、同窓会「若つた会」へのご入会を心から歓迎いたします。これからは進学に就職に、それぞれ新社会人として歩まれますが、母校で身に着けた基礎を中心にそれらに活用する事になります。これからは更に数倍の人生が待っております、自分の夢に向かって自信と勇氣をもつて活躍してください。昨年も書きましたが「郷帰りに、人を元氣付ける力がある」と言われます、故郷のご家族のありがたさと友人との友情を忘れず大切にしてください。

さて、「若つた会」仙台支部は昨年で30周年を迎えましたが、当初からの会員の方々が今尚、元気に役員会及び総会・ゴルフで活発に協力頂いております。更に今期の定期総会には清陵学院卒業生の会

員の方々が大勢参加いただき、新旧会員の親睦が2次会・3次会と続き盛況でありました。尚、総会には壽松木道作新会長をはじめ、赤川前会長、高久英夫教頭先生、小野則夫、佐々木純悦、佐々木輝雄先生方に御出席をいただき感謝申し上げます。

又、今回も関東支部から相馬支部長、藤原幹事長の出席をいただきました。

更に、今回から横手高校「美人野合」柴田友樹仙台支部長様にも出席いただきました。支部の年間行事としては、11月(定期総会)、6月(清陵卒業生歓迎の集い)、年4回(ゴルフ大会)そして、役員会を数回実施いたしております。

6月の清陵学院卒業生歓迎の集いでは、卒業後3か月と日も浅く不安や心配事も感じられます、担任の先生方のアドバイスは必要と思われれますので、継続すべきと考えます。これからは、特に清陵学院卒業生の会員の皆さんには支部の運営の中核部隊となつていただき、先輩会員を引率してくださいます様お願い致します。

いづれにしても、支部の運営には会員多数の参加と協力が必須であり、今後今回以上の総会参加者を募つてまいりますので、ご参加をお願い致します。

仙台支部の所在する仙台市



は震災後5年を経過しました。被災者の方々は仮設住宅から復興住宅への転居が進んでおりますが100%ではありません。反面、昨年12月は地下鉄東西線が開業いたしました。特に西部地区の大学生にとつてはなんと便利になったことか、更に市内飲食街もかつてのにぎわいを取り戻し、恒例行事も復活し大変なにぎわいを感じます。しかし、まだまだ復興の遅れている自治体もあります。

昨今、地球温暖化が原因とされる、大規模な自然災害が多発しており、更なる災害が心配されます。

最後に、卒業を期に仲間たちとは疎遠になることなく、同窓会の会員として尚一層絆を深めご活躍できますことをご祈念申し上げます。

九期生 中川原香南

卒業後数ヶ月が経ち、新生活にも慣れ始めた九期生の仲間が、六月に行われた「若つた会」の集いに参加しました。先生方や先輩達、同窓会の方々が私たち九期生を暖かく迎え入れて下さり、充実した時間を過ごすことができました。このような会を開いて頂き、本当にありがとうございます。互いに近況報告をし合い、皆それぞれの道で頑張っていることを感じました。学び舎での思い出話に花を咲かせ、先生方からお話を頂いたことで、四月に掲げた目標を再確認し、初心を忘れず頑張ろうという気持ちになりました。

関東「若つた会」

支部長 相馬 基

第十期の皆様、ご卒業おめでとう御座います。

恵まれた環境で、学習と部活に充実した高校生活を送られたと思います。此れからは進学に就職にと大きな希望に満ちて新たな門出と成ります。祝福いたします。関東・首都

圏には清陵の卒業生、多くの大先輩が活躍されており、同窓会会員は「若つた会」関東支部で日頃交流をし強い絆で結ばれております。希望に満ちた皆様のご入会を心から歓迎いたします。入会された皆様への心の拠り所になる事を目指しております。恒例の歓迎会が行われます。お目にかかる事を楽しみにしております。



上げていただいた事と清陵卒業生が過去に無い大勢で参加され先生始め先輩と楽しく交流された事です。二十八年秋に交流会が行われます。新同窓会員の皆様ご案内致します。万障繰合せ参加される事を希望します。

新社会人として

九期生 木曾涼汰

卒業してから早くも一年が経とうとしています。私にとってこの一年はあつという間に過ぎた一年でした。

今回は、私は九期生の集いは仕事により都合が合わず、参加することが叶いませんでした。多くのOBの方や先生方に会える貴重な機会を逃し非常に残念でなりません。

同窓会には参加できませんでしたが、たまに近くにいる仲間とご飯を食べに行くことがあります。会社や学校がどうとか、他愛もない話なのに元気をもらえ、明日も頑張ろうという気持ちになります。その度に仲間との繋がりの大切さを感じます。

高校時代では得られない経験や苦悩、新しいことへの挑戦、この一年でいろいろなことがありました。切磋琢磨する心をわすれず、人との繋がりを大切に、一日一日の貴重な経験を確実に積み重ね頑張っていきます。

青春の丘燦燦

キャリアアドバイザー

昭和48年 土木科卒 柴田健司

清陵になる前年だったか同級会が開かれました。その折、生徒会長だった高野君が新校舎を訪問し、新しくなっても同窓の灯は続くからと申し送りを受けたと挨拶したのですが、ずっと校名が無くなった喪失感を引きずったままでした。それが昨年からは自らに勤務するようになって自分の認識の甘さに気付かされました。

それは、横工からの歴史が色々な意味で脈々と受け継がれてきたことと、折りに触れて横工色がでてくるので反対に少し戸惑ってしまうこともあること。それ以上に教育システムがとてつもなく進化して、清陵になった意義の大きさが改めて納得できたからだと思います。校訓の「切磋琢磨」が有機的に機能している成果だと思えます。創立以来携わってこられた先生方皆様のご尽力の賜と思えます。

私は諸先輩方同様な長い職業生活で貴重な人生経験をさせていただきました。その中で最も感じている事は、スキルを磨くことは勿論のこと、職



第十期生のみなさん、そして、保護者の皆様、ご卒業本当におめでとうございます。



私たち第十期生は、このたび高等学校を卒業し、横手工業・横手清陵学院同窓会に入会させていただきます。どうぞよろしく願います。

私たちはこの清陵学院で、各々の未来に向かって勉強や部活動などをはじめとする様々な活動に取り組んできました。仲間と共に学び、競い合い、互いの未来に望みを持って高校生活を送れたことは私たちの人生にとってかけがえないものとなっております。そのような充実した日々を支えてくださった同窓会の



◆若つた会のマーク



同窓会10周年を記念し新しいマークが出来ました。

皆様、本当にありがとうございます。

私自身、横手工業から受け継がれてきた伝統に参加する一員となれることを大変うれしく感じております。

これから、私たちは清陵学院で学んだ二十一世紀を生き抜く力を、自分自身が生きていく場所で最大限に活かしていきます。どうか温かくも厳しいご指導で支えてください。同窓会の一員としての誇りを胸に、母校と同窓会の発展に貢献できるよう努力することを約束します。

東北大会以上の活躍

- 【高校 男子陸上競技部】
 - 東北陸上競技選手権大会
 - ・ハンマー投 2位
 - ・三段跳 3位
 - ・走幅跳 5位
 - 国民体育大会陸上競技
 - ・(少年男子B) 100m 出場
 - ・少年男子共通 4×100m 出場
- 【高校 女子陸上競技部】
 - 東北高等学校陸上競技大会
 - ・走高跳 2位
 - ・走幅跳 6位
 - 近畿インターハイ
 - ・走高跳 出場
 - ・走幅跳 出場
 - 東北陸上競技選手権大会
 - ・走高跳 1位
 - ・走幅跳 6位
 - 国民体育大会陸上競技
 - ・(少年少女A) 走幅跳 出場
- 【高校 水泳部】
 - 東北高等学校選手権水泳競技大会
 - ・男子200m自由形 出場
 - ・男子100m自由形 出場
 - ・男子200m背泳ぎ 出場
 - ・男子100m背泳ぎ 出場
- 【無線部】
 - 全国高等学校A R D F 競技大会 144メガヘルツ競技
 - 学校対抗 優勝
 - ・女子個人 第1位、第2位、第3位、4位
 - ・男子個人 第5位
 - 全日本A R D F 競技大会
 - 3.5メガヘルツ競技 高校対抗 6位
 - ・男子個人 3位
 - ・女子個人 2位
 - 144メガヘルツ競技 学校対抗 2位
 - ・男子個人 2位
 - ・女子個人 1位、3位
- 【家庭クラブ】
 - 全国高等学校家庭クラブ研究発表大会北海道大会
 - 研究発表 学校家庭クラブ活動の部
 - ・産業教育振興中央会賞 (全国大会第2位)
 - ・クラブ員奨励賞

平成27年度の部活動

特別活動部主任 田口康成

今年、運動部、文化部ともに、一人一人が持てる力を十分に発揮してたくさん成果を上げることが出来ました。高校陸上競技部の東北大会、インターハイ、国体への出場や、水泳部の東北大会出場がありました。高校文化部では無線部の全国高等学校A R D F 競技大会4年ぶり3回目の学校対抗優勝や、家庭クラブの全国高等学校家庭クラブ研究発表大会北海道大会にて産業教育振興中央会賞(全国大会第2位)とクラブ員奨励賞をダブル受賞するなどの朗報が続きました。また、高校野球部の秋季県南野球大会優勝

があり、学校全体が盛り上がりました。中学校では、陸上競技部、バドミントン部、柔道部が東北大会に出場しました。他にも数え切れないほど多くの活躍がありました。

これら部活動での活躍は、選手を支える家庭や同窓生のみならずの応援のお陰だと思っております。今後も部活動を充実させるためにさらに努力してまいります。清陵生への応援よろしく願います。

二〇一六年 春卒業生の進路指導

進路指導主事 泉田 健

1月22日現在の進路状況についてご報告します。

10期生181名のうち、進学希望は130名(72%)、就職希望は50名(28%)となっており、進学ではAO・推薦入試等の結果、秋田大学や長岡技術科学大学など国立大学に8名、私立大学に14名が合格しております。大学入試センター試験には80名が受験しており、1月下旬からの私立大学入試も踏まえ、一般受験がいよいよ本格してお

ります。国立大学後期日程は3月12日、長い戦いとなりますが、進路実現へ向けた一人ひとりの努力と粘りに期待しております。

一方、就職では、昨年に引き続き求人状況が好調で、県内求人も増加傾向にありました。今年度は県内就職希望者が増加し、18名が県内企業より内定をいただき、県外就職者とあわせ民間就職希望者41名全員が昨年未までに内定をいただいております。求人依

頼の際には「横工以来の信頼」という言葉をいただきます。これも県内外で活躍される同窓生の存在あってのことと感謝しております。同窓会の皆様には今後とも変わらぬ御支援よろしくお願いたします。



H27年度 進路状況

(2月1日現在)

主な進学先

国公立大学

秋田大(3)、秋田県立大、秋田公立美術大、岩手県立大、新潟大、長岡技術科学大、福島大

私立大学

東北工業大(2)、東北文化学園大、尚絅学院大、日本赤十字秋田看護大、神奈川大(4)他

主な就職先

・県内企業

JUKI電子工業(株)、秋田エプソン(株)(3)、創和建設(株)、(株)半田工務店、セイコーインスツル(株)秋田事務所、並木精密宝石(株)秋田工場他

・県外企業

新日鐵住金(株)(2)、小田急電鉄(株)、曙ブレーキ岩槻製造(株)、東北電力(株)、(株)明電舎、(株)NTT-ME(2)、住友林業ホームエンジニアリング(株)、(株)ユアテック、(株)洞菱工機、日産自動車(株)、住友電気工業(株)、JFEスチール(株)、他

・公務員

警視庁、埼玉県(学校事務)、自衛隊一般曹候補生(3)

お知らせ

平成二十八年年度 同窓会総会

六月十一日(土) 午後一時三〇分

横手清陵学院・清陵ホール(予定)

多数のご参加をお待ちしております。



横手清陵学院高校は昨年十周年を迎え、今年度は新たに次の十年に向かってこれからの同窓会活動を活発にするための課題を検討し、かつ対策を実施する年にもなりました。

まずは、横手清陵学院高校卒業生の同窓会行事への参加を増やしていくことが第一の課題であります。今年度は新たな試みとして、十一月に行われた関東若つた会におきまして、本校から四名の先生が参加し、バンド演奏を行いました。

した。その甲斐あって清陵学院卒業生は二十名以上参加してくれました。また、卒業式前日に行われます同窓会入会式の挨拶を本部・関東・仙台のそれぞれ三地区の清陵学院卒業生にお願いすることになりました。今後も各支部からのアイデアをぜひ実現出来るよう事務局でもサポートしていきます。

もう一つの課題は財政であります。昨年立ち上げた財政問題検討委員会も引き続き検討を行っておりますが、少子化の影響で卒業生が年々少なくなっております。事務局でも支出を出来るだけ抑えるため、各種の工夫をしているところでもあります。役員の方々には、自費での各種総会等への参加等、非常に心苦しくも無理をお願いしている状況であります。今回の同窓会報の発行に合わせて、協賛金のお願いをさせていただきます。ぜひともご協力をお願いいたします。

事務局便り 次の十年に向けて